

---

# 地獄のそこまで遊んでやる！

本間陣太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地獄のそこまで遊んでやる！

### 【Zマーク】

Z4518Z

### 【作者名】

本間陣太

### 【あらすじ】

これはオニゾンビから1年間逃げる物語である。  
一期とかもあるのでこう期待！  
残酷なシーンがあります

## 始まりの日

「ゼエゼエ・・・・・

今、俺は逃げている

なぜ逃げているのを説明するのは長くなるが一応話しておこう

それは今から1時間前のことだ

俺はその時4:00に起きていた

それで窓を開けて下をみると何人か男の人達がいた

「誰だろ・・・・?」

俺は相手が俺を呼んでいるような気がしたので行つてみた

俺：「あの～・・・誰ですかあなた達？」

？？？？？「私はピリオドと言います！」

あなたにはこれから仲間を2人連れてオーラから  
1年間逃げてもらいます～」

俺：「は？」

何言ってんだろこいつら・・・  
ふざけてんのか？

ピリオド：「まあいいから早く仲間を2人集めてきてください

俺：「なんで俺がオーラをしなきゃいけないんだよー。」

ピリオド：「あなたは選ばれたんです！」

神に！

まあ詳しくは教えませんがあと10分以内に仲間を  
2人集めてくださいね～」

俺：「わけわからんねえよ！  
ちえつ！

まあ集めてから聞くか・・・」

そいつ言って俺は仲間を集めに行つた

～5分後～

俺：「おいー集めてきたぞピリオドーー。」

俺が集めた仲間は  
まず美香っていう奴だ  
なぜならこいつとは幼馴染で  
足が速いからだ  
二人目は龍太だ  
通称デブと呼んでる  
こいつはデブだが  
隠れるところはかなり知つてゐる

美香：「それで！オーノッソ「するんでしょ！  
さつたと始めよつよ」

デブ：「最近軍人系の遊びにはまつてゐるから  
早くその力を發揮させたいなあ～」

ピリオドー：「では、説明と武器などはこの箱の中になりますので

がんばってくださいね~~~~~

そつまつペリオドは消えた

俺：「おいおい・・・」

デブ：「まあとりあえず紙があつたから  
見ようよ」

美香：「そうだね」

紙：『このオーゴッコは全150人の選手が

1年間逃げて何人生き残れるかの闘いです

終わる方法は1年間逃げ切るか  
オーン<sup>ゾンビ</sup>をすべて殺すかの二つです

最後まで生き残った方はこれを開催した  
グループを殺すことが出来ます

自分の仲間は死んでもかまいません

武器は銃です。弾薬とかは

どこかに落ちてるので頑張つてください

4：30から始まるので皆さん頑張つてください  
あと全員のゾンビが死んだらチャイムがなつて  
グループの居場所を教えますんで』

俺：「まじかよ・・・」

美香：「・・・」

デブ：「まじですか〜！」

三人は驚きを隠せなかつた

なぜならその次の付けたしの部分を見たからだ

付け足し：『逃げる範囲は東京の中だけですそこから外にでると死にますんで

あと東京内にいるゾンビは3億5千万体ですので』

俺：「3億・・・5千万体・・・」

美香：「もう始まるんだからみんな  
武器持つて行くわよ」

デブと俺：「OK！」

ここまでが今説明した内容だ

## 始まりの日（後書き）

学生なので投稿が不定期になります  
美香の本名は後で決めます  
龍太の本名は加羅崎龍太です  
主人公の名前は後からわかるので

あ！俺の名前を教えてなかつたから一応教えておこう

俺の名前は坂本隆也だ。

一応名前が分からなかつた人には残念賞だな

俺：「おい！一人とも、来たぞ！」

デブ：「任せろって！」

そつ言つてデブはゾンビの頭を上手く狙い8体ほど殺した  
美香と俺は頭を的確にねらえないので  
打ちまくつて2体殺した

俺：「はあ・・・

頭狙うのは難しいな

お前すごいよ」

デブ：「それでもないよ

なれたら楽勝だつて！」

美香：「あんた、すばしき・・・」

俺と美香は感心していた  
いろいろな意味で・・・

俺：「おい美香！あと何匹なんだ？」

美香：「こまだに止まっている様子はないわ

止まつたら教えるわ

俺：「わかつた」

デブ：「まあとにかくあの家の上にいよう  
あそこなら5時間くらいは耐えるよ

俺と美香：「わかつた！」

そう言って上った後3人グループがいた

俺：「あいつら何焦ってるんだ？」

デブ：「たぶん弾薬が無くなつたんだと想つよ」

美香：「どうする？助ける？」

俺：「いや、助けない」

助けて後から弾薬とか盗られたりしたら  
どうしようもないからな」

デブ：「それもやつだね」

そう言つて俺たちはあの3人を高い所から見守つていた  
すると・・・

？？？？？「た・・・助けてくれ～！～！」

？？？？？「死にたくねえよ～！～！」

？？？？？「・・・・・・・・・・・・」

そう言つてその3人はゾンビに骨まで喰われていつた  
あたりには約1リットルくらい血が出ていた

俺：「これでいいんだ・・・」

美香：「そうね・・・・・・」

デブ：「これが僕たちでできる」とだね  
それよりも下にゾンビいるから殺すよ？」

俺と美香：「OK！」

そういうつて俺たちは下にいるゾンビを20体くらい殺した

美香：「あー！」

俺：「どうしたんだ美香？」

美香：「時計が止まってるー！」

デブ：「まじか！」

俺たちは残り人数と残り時間と残りのゾンビの数をみた

みんな：「ウソだろ・・・」

## e メモ（後書き）

話が面白くなくてすみませんへへ；  
でも頑張りますのでこれからもよろしくお願いします！

説明してなかつたので説明しよう  
最初の箱の中に入つていていた時計には残りゾンビの数と残り人数と何  
日たつたかがわかる  
この空間の中では何日経つたのか分からぬのだ

時計：『残り人数：30人

残りゾンビの数2億5千万体

半年経過しました』

俺：「うそだろ・・・

もう半年も過ぎてんのかよ！――

美香：「それよりこれ！

残り人数30人つて・・・

もう後2割しかいないじゃないの！』

デブ：「残りゾンビもすごいよ！

もう1億体も殺してるよ！

早いね』

みんなの意見が違つっていた

俺：（これはまだ裏があるかもしれないな・・・）

俺：「とにかく後半年だ！

死なないようにするぞ！』

「人は「クリとうなずいた

俺：「また下にゾンビがいるな・・・」

デブ：「殺しますか」

美香：「あんた・・・楽しそうね・・・」

話してるといきなり火がついた

俺：「うわっ！なんで火が！」

デブ：「やばい！下にはゾンビがいる・・・  
どうする？」

美香：「私がお前ら一人をあそこの柵まで投げるわ！  
そのうちに逃げて」

俺：「いや・・・だめだ！  
3人で逃げるぞ！」

デブ：「どうやつて？」

美香：「そつよー！デブの言ひとおりだわ  
！」には私が・・・」

俺：「だめだ！・・・」

俺は本氣で怒った

美香：「…………」

俺：「お前…………」こで死にたいのか！死にたくない癖に何強がつてんだよ！

ふざけるな！こには全員で逃げるぞ！」

美香：「わ……わかつたわよ……」

美香は顔が赤くなっていた

デブ：「おー美香ちゃん赤くなってるね！

ひょっとして隆也のことが

美香：「違うわよ…………」

デブ：「ハハッ！」

デブは美香に3発ほどぶん殴られていた

俺：「とにかく今は半年経っているんだ

あれを使つてもいいだろ！」

デブ：「俺が投げさせてもらひつよ！」

俺：「OK！」

一応言つておくが『あれ』といつのは  
手榴弾の事だ

俺：「よし！なら俺と美香は先に柵の外にいるからお前も投げた瞬間にすぐ来いよ！」

デブ：「OK！」

～10秒後～

俺：「OKだ」デブ

そう言つてるとデブの姿がない・・・

俺：「あいつ・・・どこ行つたんだまさかー！」

デブ：「おつす！」

俺と美香：「わっーー！」

俺：「なんでお前がここにいるんだよー！」

デブ：「今気づいたんだけど・・・

「これかなり軽いから遠くからも投げれるんだよね！  
後、これ以上あそこにいたら足場無くなつてたしね！」

見ると俺たちが下りたハシゴは焼けていた

デブ：「まあ投げるよ！」

隆也と美香ちゃんは後ろのゾンビを倒してて

俺と美香：「承知！」

そつぱつて美香と俺は走つてゾンビの近くまで行き銃で撃ちまくつた

「テブ：「これでよしーへりえ！」

そしてこの家ごと吹つ飛べ！」

そう言つてテブは投げた瞬間、急いで走り俺と美香の援護をした  
（数秒後）

「ドガー——————ン！」

大きな爆発音とともにゾンビと家は  
粉々になった

（それから5分後）

俺：「こつひも終わつたな

美香：「そうね」

「テブ：「そつだーちょっと疲れたからみんなで「ゾンビ」に行こうよー。  
絶対うまいものあるからー。」

俺：「全くお前は・・・」

美香：「まあおなか減つてきたしこましあうー。」

俺：「そつだな・・・」

「テブ：「いやつまー——————！」

栗子食こまぐればせー。」

俺……まあいくか！

セツヒツ俺たちば「ソソソー」と向かった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4518z/>

---

地獄のそこまで遊んでやる！

2011年12月17日21時53分発行